

国語国文学専攻カリキュラム

本専攻は、国語国文学に関する伝統的な学問領域を対象として、それをより深く研究し、その成果と研究方法を身につけることを目指す。

日本語学（国語学）は、日本語の変化や、各時代の言語体系を研究の対象とする。ことばはそれが社会的に存在する以上、一定の約束事、すなわち体系を構築する。ただし、それが自然界に存在する法則と異なるのは、人間が作り出したもので、永い歴史と民族・風土の上に打ち立てられてきた法則であるということであろう。これを母語としての立場から、その過去・現在・未来を見つめて、日常では意識しない法則性を浮き彫りにするとともに、それが日本語としての性格を保持し続けている意味を探究する。もちろん、日本語の日本語たる所以を明らかにしようと思えば、諸外国語との対照研究も必要になり、その研究は他言語を母語とする人々に日本語を教えるための基礎知識ともなる。

日本文学（国文学）は、我が国の伝統遺産たる日本の文学を研究対象とし、これの価値の発見、継承発展を課題とする。ただし、直ちに今日的意義を問うのではなく、その作品が成立した社会・風土・歴史などの面から成立の必然性を追求し、それを受け入れた風潮を考えることを第一義におく。次には、それがどのように次代へ継承され、人々の想いを喚起し、新たな創作へと導いたかを考える。もちろん、これらの遺産は文献という媒体によって知りうるものであるから、その媒体自体の有する価値と意味を追求しなければならない。これらはかなり専門的な知識と方法を駆使しなければならないから、その基礎知識や技術の訓練が必要である。当然、豊かな感性と透徹した論理性が基底となる。

1. カリキュラムの特色と構成

(1) 日本文学系統

古代（上代・中古・中世）から近代（近世・近代・現代）までの領域において、散文と韻文、および戯曲を対象に研究指導を行う。学生は自己の希望する時代分野以外に、日本文学史をはじめ、関連する他の時代分野も積極的に学ぶように指導する。歴史・民族・芸術および諸外国の文学なども学習しうる便宜をはかる。

(2) 日本語学・日本語教育系統

古代から近代・現代までの日本語を対象とし、音韻・文法・語彙・敬意表現・言語生活などの各方面からの学習研究をめざす。学生には一時代・一分野に偏らず修得するように指導する。諸外国語との比較研究も行う。応用としての日本語教育も視野に入れる。

(3) 共通課題

文学・語学ともに、それぞれ他系統の科目も修得することを要求する。なお、他学部、他専攻の学部卒業生および学部卒業後3年以上経過して入学した学生に対しては、基礎知識を補う授業を状況に応じて別途用意し、これを受講するよう指導する。なお、この授業では単位は与えないものとする。

2. 授業科目一覧表

国語国文学専攻授業科目一覧表

系統	授 業 科 目	科目 ナンバー	担 当 者	配当 年次	開講 区分	週 時間	単位	備 考
必修	国語国文学特別研究	MJ6010	青木 稔 田中 まき 池谷 知子 黒木 邦彦 田附 敏尚	2	通年	2	4	
日 本 文 学	日本文学特殊講義ⅠA	MJ501A	田中 まき	1・2	前期	2	2	古代 隔年開講(2020年度不開講)
	日本文学特殊講義ⅠB	MJ501B	田中 まき	1・2	後期	2	2	古代 隔年開講(2020年度不開講)
	日本文学特殊講義ⅡA	MJ502A	青木 稔	1・2	前期	2	2	近代 隔年開講
	日本文学特殊講義ⅡB	MJ502B	青木 稔	1・2	後期	2	2	近代 隔年開講
	日本文学演習ⅠA	MJ503A	田中 まき	1・2	前期	2	2	古代 隔年開講
	日本文学演習ⅠB	MJ503B	田中 まき	1・2	後期	2	2	古代 隔年開講
	日本文学演習ⅡA	MJ504A	青木 稔	1・2	前期	2	2	近代 隔年開講(2020年度不開講)
	日本文学演習ⅡB	MJ504B	青木 稔	1・2	後期	2	2	近代 隔年開講(2020年度不開講)
	日本文学史特殊講義A	MJ505A	田中 まき	1・2	前期	2	2	
日本文学史特殊講義B	MJ505B	田中 まき	1・2	後期	2	2		
日 本 語 学 ・ 日 本 語 教 育	日本語学特殊講義ⅠA	MJ506A	黒木 邦彦	1・2	前期	2	2	古典語 隔年開講
	日本語学特殊講義ⅠB	MJ506B	黒木 邦彦	1・2	後期	2	2	古典語 隔年開講
	日本語学特殊講義ⅡA	MJ507A	田附 敏尚	1・2	前期	2	2	現代語 隔年開講(2020年度不開講)
	日本語学特殊講義ⅡB	MJ507B	田附 敏尚	1・2	後期	2	2	現代語 隔年開講(2020年度不開講)
	日本学特殊講義A	MJ508A	青木 稔	1・2	前期	2	2	隔年開講
	日本学特殊講義B	MJ508B	青木 稔	1・2	後期	2	2	隔年開講
	日本語学演習ⅠA	MJ509A	黒木 邦彦	1・2	前期	2	2	古典語 隔年開講(2020年度不開講)
	日本語学演習ⅠB	MJ509B	黒木 邦彦	1・2	後期	2	2	古典語 隔年開講(2020年度不開講)
	日本語学演習ⅡA	MJ510A	田附 敏尚	1・2	前期	2	2	現代語 隔年開講
	日本語学演習ⅡB	MJ510B	田附 敏尚	1・2	後期	2	2	現代語 隔年開講
	日本語教育特殊講義A	MJ511A	池谷 知子	1・2	前期	2	2	隔年開講
	日本語教育特殊講義B	MJ511B	池谷 知子	1・2	後期	2	2	隔年開講
	日本語教育演習A	MJ512A	池谷 知子	1・2	前期	2	2	隔年開講(2020年度不開講)
	日本語教育演習B	MJ512B	池谷 知子	1・2	後期	2	2	隔年開講(2020年度不開講)

3. 修了要件・単位履修方法

修士課程を修了し、修士の学位を受けるためには、32単位以上を修得し、修士論文を提出して最終試験に合格しなければならない。

32単位の修得に関する指導方針は、次のとおりである。

32単位の内訳は、以下の①～③とする。

①必修4単位：

「国語国文学特別研究（論文指導）」通年、2年次配当

②選択必修16単位以上：

日本文学系統もしくは日本語学・日本語教育系統の2分野から1分野を選択する。

③②で選択した分野以外の任意科目、および他専攻・神戸大学大学院での開講科目

*ただし、他専攻・神戸大学大学院での開講科目履修は10単位を越えてはならない。

修士課程学生は、在学中に研究倫理教育の講習を受けなければならない。

4. 論文審査と学位認定の方法

指導教員が主査となり、隣接・関連する分野の教員2名を副査として審査にあたる。主査・副査は提出された論文を査読し、面接・口頭試問を行って、これを評価する。

5. 修士論文 審査基準

修士論文は大学院での研究教育の成果を表すものとして、次の基準を満たすものでなければならない。

- (1) テーマの適切性：修士論文にふさわしい研究テーマで、その課題設定が明確適切になされていること。
- (2) 独創性：当該研究テーマの考察及び結論に新しい知見が含まれていること。
- (3) 研究史の把握：当該研究テーマについての先行研究を十分に調査理解し、整理検討されていること。
- (4) 実証性：当該研究テーマについて論理の展開構成に一貫性があり、その論旨が明解であること。
- (5) 論証の健全性：当該研究テーマについての主張の論理的妥当性が論文の中で明快に提示されていること。
- (6) 倫理的配慮：研究方法や研究対象に対する倫理的配慮がなされていること。内容によっては神戸松蔭女子学院大学研究倫理委員会の承認を得なければならない。

提出にあたっては次の事項に留意すること

- (1) 使用言語は日本語とする。

6. 研究・学修指導に関するガイドライン

■スケジュール

< 1年次：M1 >

- 4月 新入生オリエンテーション
教務部による全般的説明
教員による履修ガイダンス
- 4月中旬 履修指導および履修登録
- 8月上旬 前期目標達成度確認
- 9月上旬 後期履修登録（追加・取消）
- 9月下旬 修士論文中間発表会参加
- 2月上旬 M1目標達成度確認

< 2年次：M2 >

- 4月 履修ガイダンス
- 7月 修士論文中間発表会のタイトル提出
- 8月上旬 前期目標達成度確認
- 9月上旬 後期履修登録（追加・取消）
- 9月下旬 修士論文中間発表会での発表
- 10月上旬 研究題目の登録
- 1月 修士論文提出
- 2月 最終試験
- 3月 学位記授与

■指導教員について

- ・研究しようと思うテーマを定めた後、その分野に最も近いと思われる教員に指導を依頼することとする。
- ・1年次においては、専門分野を必ずしも固定的なものと考えず、多様な学問分野を幅広く学ぶことを推奨するので、必要に応じて、2年次での指導教員の変更を認める。

■履修について

- ・日本文学系統および日本語学・日本語教育系統の2分野から、自分の専攻する分野を選択する。
- ・専攻した分野から16単位以上を修得する。
- ・他専攻・神戸大学大学院での開講科目を履修する場合は、10単位を越えぬ範囲で履修する。
- ・2年次に指導教員担当の「国語国文学特別研究（論文指導）」を履修する。

■履修登録

- ・1年次は、指導教員と協議した上で、履修する授業科目を決定する。
- ・2年次は、正式に決定した専門分野での研究計画を具体的に作成し、履修する授業科目を、指導教員と協議した上で決定する。

■年次研究計画書提出

- ・4月末日までに、「年次研究計画書」を、指導教員の了承を得た上で、専攻長あてに提出する。

■修士論文について

- 論文の使用言語は原則として日本語とする。
- 1年次の幅広く学んだ基礎の上に立ち、2年次に本格的な執筆活動をする。
- 修士論文指導は、2年次に「国語国文学特別研究（論文指導）」を中心に行う。
- 具体的な指導方法については、指導教員の指示に従う。
- 研究の進展状況を指導教員に定期的に報告し、評価とアドバイスを受ける。

■修士論文中間発表会

- 9月下旬に実施する。
- 発表者は修士論文提出予定者であるが、大学院生全員が参加し、質疑応答に加わる。

■修士論文題目届提出

- 修士論文を提出しようとする者は、当該年度の修士論文中間発表会での発表を経て、10月上旬までに、指導教員、専攻長の了承を得た上で、論文題目を教務課に提出する。
- 論文題目は大学院での議決を経て、正式なものとなる。大学院での議決を経ない題目変更は認められない。

■修士論文提出

- 修士論文は、修了年度の1月中旬に教務課に提出する。
- 論文（正本1部、副本2部）、論文要旨（3部）、所定の学位申請書を添えて提出する。

■修士論文試問

- 修了年度の2月上旬に1時間程度を目安にして実施する。

■最終試験

- 修了年度の2月中旬以降に、口頭発表とその質疑応答の形式で実施し、広く公開するものとする。
- 大学院生全員が参加し、質疑応答に加わる。

■修士論文の必要条件

- 修士論文にふさわしい課題を設定する。
- 研究史を的確に把握して、先行研究を十分に理解、整理検討する。
- 当該研究テーマの考察及び結論に新しい知見を含む創造性を確保する。
- 当該研究テーマについて一貫性のある論理展開をなして明確な論旨で実証する。
- 神戸松蔭女子学院大学研究倫理委員会規程に従い、必要に応じて、同委員会の承認を受ける。